

米国 小売売上高のモメンタム回復 (07年11月小売売上高)

発表日：2007年12月13日(木)

～マインド悪化も比較的良好な雇用所得環境に加えて10月の特殊要因の剥落等によって加速～

第一生命経済研究所 経済調査部
桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

- 11月の小売・飲食サービス売上高は前月比+1.2%と市場予想の同+0.6を大幅に上回った(9、10月合計で0.1%上方改定)。一方、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は前月比+1.8%(前月同+0.4%)と加速し市場予想の同+0.6%を大幅に上回った(9、10月合計で0.5%上方改定)。また、全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は前月比+1.1%(前月同+0.1%)と加速した。
- 3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+5.2%(前月+0.9%)と加速した。この数字はガソリン販売が価格上昇によって11月に大幅に増加した影響を受けている。このような影響を除いた「自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高」は11月に+2.9%(同+1.2%)と小幅加速した。金融市場の混乱拡大、原油価格の上昇によるマインドの悪化にも関わらず、比較的良好な雇用・所得環境、株式資産残高・住宅資産を担保とした借り入れの増加、企業の積極的な値下げ販売によって加速したと判断される。
- GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高(除く自動車・ガソリン・建材)は、11月に前月比+1.1%(前月同+0.2%)、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+3.9%(前月+2.6%)と加速した。このため、10～12月期の実質個人消費は前期比年率+2%台半ばと7～9月期の同+2.8%(同+2.7%から上方改定される見込み)から小幅減速にとどまると予想される。

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン			
07/01	▲0.0	(+2.2)	+0.2	▲0.4	▲0.8	+2.0	▲1.6	+0.4	+2.8	▲0.0
07/02	+0.6	(+3.6)	+0.5	+0.4	+0.8	▲0.1	+0.4	+0.9	▲1.7	+1.6
07/03	+1.0	(+4.4)	+1.1	+0.7	+0.6	+0.0	▲1.0	+1.0	+2.0	+3.1
07/04	▲0.3	(+2.8)	▲0.1	▲1.3	▲1.3	▲0.6	▲0.2	+0.2	▲1.7	+1.2
07/05	+1.6	(+5.1)	+1.7	+2.0	+1.2	+0.7	+1.1	+1.6	+2.7	+4.6
07/06	▲0.8	(+4.0)	▲0.2	▲2.5	▲2.9	▲1.6	▲1.0	+0.0	▲1.2	▲1.9
07/07	+0.6	(+3.7)	+0.7	+0.4	▲0.0	+1.5	+1.4	+0.7	+1.3	+0.1
07/08	+0.1	(+3.6)	▲0.8	+1.7	+3.4	▲0.7	+0.2	▲0.8	▲0.3	▲2.9
07/09	+0.8	(+5.0)	+0.6	+0.8	+1.5	▲0.3	+0.7	+0.9	▲0.3	+3.0
07/10	+0.2	(+5.0)	+0.4	▲0.5	▲0.6	▲0.0	+0.6	+0.6	▲0.5	+3.1
07/11	+1.2	(+6.3)	+1.8	▲0.1	▲1.0	+1.0	+2.5	+2.2	+2.6	+6.8

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

自動車を除く小売売上高は前月比+1.8%と加速

11月の小売・飲食サービス売上高は前月比+1.2%と前月の同+0.2%から加速し、市場予想の同+0.6%を大幅に上回った(9、10月合計で0.1%上方改定)。

項目別にみると、耐久財では自動車の減少幅が拡大したものの、家具が拡大に転じ、家電の増加ペースが加速したため、耐久財全体のマイナス幅は縮小した。非耐久財では、

飲食店の売上が減速したが、衣料品販売、建設資材が増加に転じ、さらに一般小売、スポーツ用品・書籍、ガソリン販売、食料品店、通信販売の増加ペースが速まったことで、非耐久財全体は加速した。

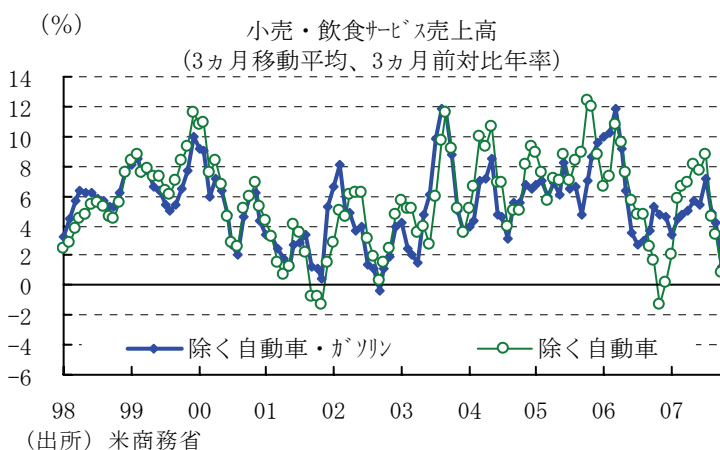
変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は家電、ガソリンの加速などにより前月比+1.8%（前月同+0.4%）と市場予想の同+0.6%を大幅に上回った（9、10月合計で0.5%上方改定）。全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は気温の低下に伴う衣料品販売の回復によって前月比+1.1%（前月同+0.1%）と加速した。

以上のように、11月の小売売上高（除くガソリン）は、金融市場の混乱拡大、エネルギー価格の上昇が続いたものの、比較的良好な雇用・所得環境、気温の低下、企業の値下げなどの販促を背景に高い伸びとなった。

小売売上高のモメンタムは回復

月次での変動を均すため3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で消費のモメンタムをみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+5.2%（前月+0.9%）と再加速した。この数字はガソリン価格変動の影響を受けているため、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高でみると、11月に+2.9%（同+1.2%）と加速した。金融市場の混乱、原油価格の上昇によるマインドの悪化にもかかわらず、雇用・所得の拡大持続に加えて、株式資産残高・住宅を担保にした資金調達の増加によって底堅く推移している。加えて、10月の小売売上を鈍化させた高い気温が11月に入り低下したことで衣料品販売が回復した。

今後12月はガソリン価格などエネルギー価格が高止まりするなか、11月の高い伸びの反動がでるとみられるが、雇用・所得の拡大、企業の積極的な値下げ販売、ギフトカードの使用によって、小売売上高は堅調さを維持するとみられる。

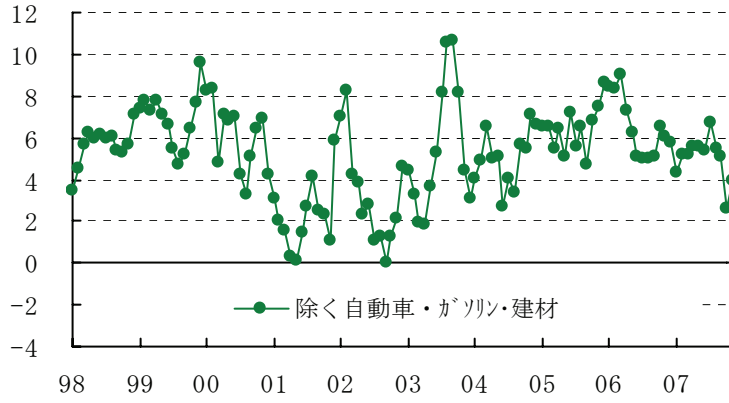


小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+3.9%（前月+2.6%）と加速

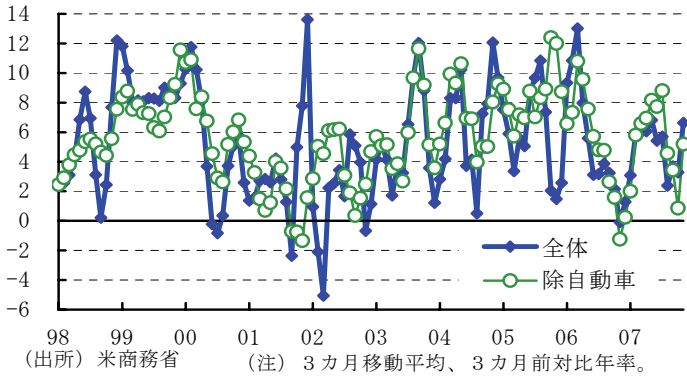
GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、11月に前月比+1.1%（前月同+0.2%：9、10月合計で0.4%上方改定）、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+3.9%（前月+2.6%）と加速した。このため、10～12月期の実質個人消費は前期比年率+2%台半ばと7～9月期の同+2.8%（同+2.7%から上方改定される可能性）から小幅減速にとどまると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

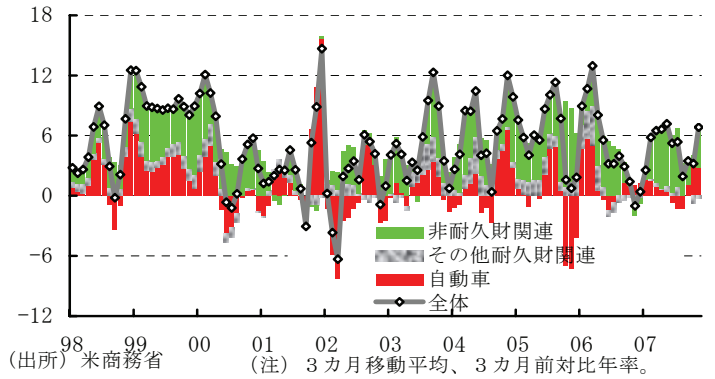
(%) 小売・飲食サービス売上高
(3ヵ月移動平均、3ヵ月前対比年率)



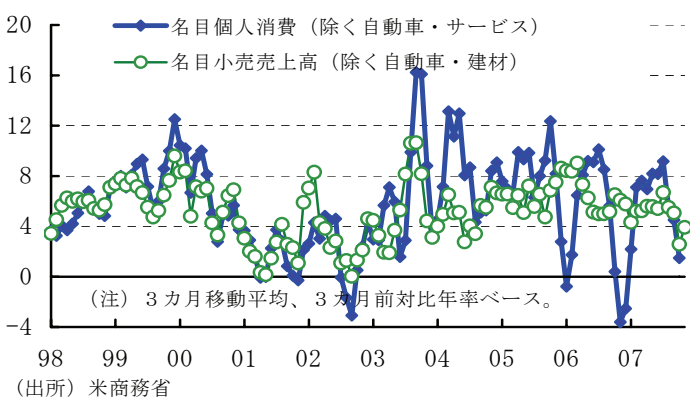
(%) 小売・飲食サービス売上高の推移



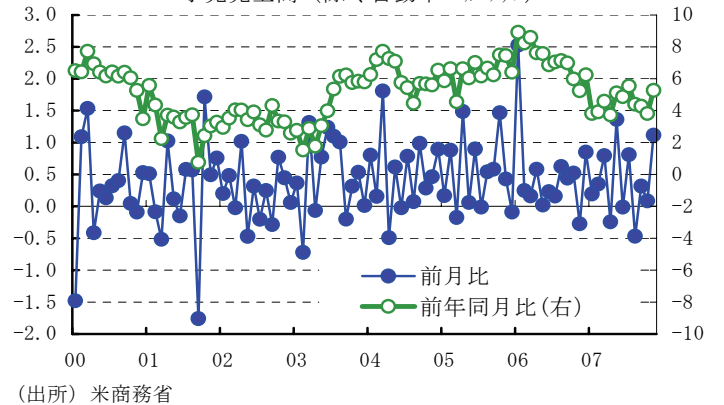
(%) 小売売上高の財別寄与度の推移



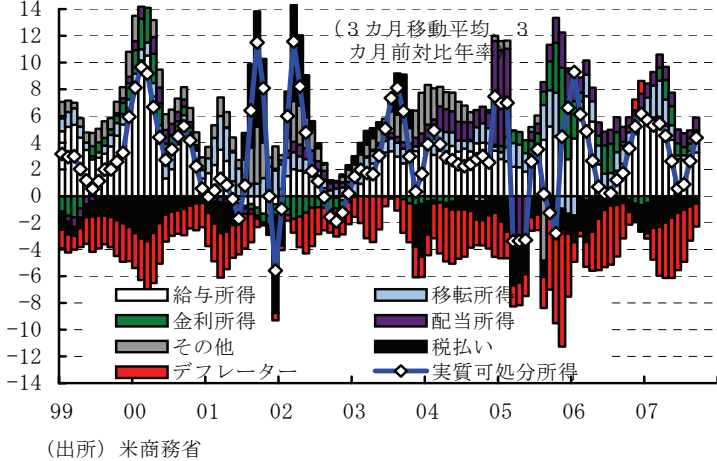
(%) 小売売上高と個人消費の推移



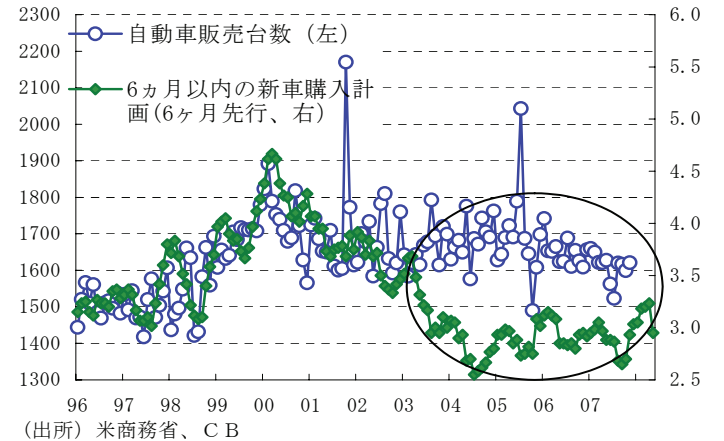
(%) 小売売上高 (除く自動車・ガソリン)



(%) 実質可処分所得の内訳寄与度の動向



(万台) 自動車販売台数 (季節調整済み年率)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。